

PRESS  
RELEASE  
2020年2月  
報道関係各位  
プレスリリース



香雪美術館 コレクション展

「伝説の<sup>れいじゆう</sup>霊獣 <sup>りゅう</sup>龍と<sup>ほうおう</sup>鳳凰」

2020年3月20日（金・祝）～5月6日（水・振替休日）

香雪美術館は、朝日新聞社の創業者である村山<sup>りょうへい</sup>龍平(1850～1933)の収集した日本と中国、朝鮮をはじめ東アジアの古い時代の美術品を所蔵しています。当館では、所蔵品を「コレクション展」として公開するとともに、春と秋に日本美術などの作品を紹介する「企画展」を開催しています。

2020年春季は、コレクション展として「伝説の霊獣 龍と鳳凰」展を開催します。想像上の神獣であり、理想的君主の象徴・吉祥のモチーフとして好まれた龍と鳳凰が表現された作品を約60点を紹介します。

「伝説の霊獣 龍と鳳凰」

龍と鳳凰はともに、伝説上の霊獣・神獣です。龍は、水中ないし地中に棲み、その鳴き声は雷雲や嵐を呼び、水を制する力を持ち、縁起の良い幸運の象徴として、中国では皇帝の表象とされました。一方、鳳凰は、梧桐に棲み、竹の実を食べ、理想的な君主が出現した際に出現するといわれる瑞鳥で、聖者・皇帝を表すものとされました。これらは瑞祥・吉祥のシンボルともされ、東アジア全域で様々な美術品のモチーフに取り入れられてきました。

本展では、当館のコレクションを形成した村山龍平の収集品の中から、龍と鳳凰を表現した作品を通して、作品に込められた意味や表現の多様性を紹介します。



会 期	2020年3月20日(金・祝)~5月6日(水・振替休)
休 館 日	月曜日 (ただし、5/4は開館)
開館時間	午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
料 金	一般700(550)円、高大生450(350)円、中学生以下無料 *( )内は20名以上の団体料金
主 催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

## 第1章 龍と鳳凰

龍（㉑）は、角が鹿、頭が駱駝<sup>らくだ</sup>、目は兎、胴体は蛇、鱗は魚、爪は鷹、掌は虎、耳は牛に似た姿であるといえます。中国では、紀元前5千年前の新石器時代にその造形が見られます。

鳳凰（㉒）は、首が蛇、胴体の前が麒麟<sup>きりん</sup>で後が鹿、尾が魚、背が亀、嘴が鶏<sup>くちばし</sup>に似た姿をし、五色の羽を持ち、五音の声を発すると伝えられます。「鳳」が雄、「凰」が雌とされ、中国の神話に登場する王・舜帝が天下を安定させた時に出現したといわれ、天子が賢聖で天下太平を象徴する瑞鳥とされました。



㉑ 景德鎮窯 色絵団龍花卉文水指  
中国・明～清時代 17世紀  
香雪美術館



㉒ 日月桐竹鳳凰孔雀図屏風  
江戸時代 17世紀  
村山コレクション

## 第2章 龍をめぐる信仰

仏教が中国に伝来すると、インドのナーガ神（コブラを神格化した精霊、天気を制する）と結びついて、水を司る龍王や龍神が生み出されました。

「俱利伽羅龍王」<sup>くりからりゅうおう</sup>は、密教の代表的な仏である「不動明王」<sup>ふどうみょうおう</sup>が龍に変身したもので、宝剣に巻に巻き付く形などで表現されます。《不動明王八大童子像》<sup>ふどうみょうおうはちだいでうじぞう</sup>（㉓）では忿怒相<sup>ふんぬそう</sup>の不動明王、

けんぞく

眷属の童子たちとともに描かれています。不動明王は仏教に敵対するものを打ち負かし、教え導きがたい人々も漏れなく救済する、激しい力を持つ仏です。そのため、その化身である俱利伽羅龍王は、武力の象徴として刀や甲冑などの武具（㊦）の装飾に盛んに用いられました。



㉞ 不動明王八大童子像  
室町時代 15世紀 村山コレクション



㊦ 鉄鳶頭形兜  
江戸時代 17世紀 村山コレクション

### 第3章 刀をよそおう龍と鳳凰

刀剣の付属品である刀装具（<sup>つば</sup>鐔、<sup>こづか</sup>小柄、<sup>めぬき</sup>目貫など）にも龍と鳳凰が表されています。

鳳凰は、棲みかである桐や食料である竹（実際に食べるのはその実）とともに表されること（㉞）があります。龍は、不動明王を表した俱利伽羅龍図や、水を表す波、雨・嵐を連想させる雲とともに表現された雲龍図、強大な力を持つとされた「虎」と対をなす龍虎図（㉞）がよく知られています。

天下太平の鳳凰、太平とともに武力の象徴であった龍は、武士にとって恰好のモチーフでした。



㊦ 桐鳳凰図小柄  
江戸時代 18世紀 村山コレクション



㊦ 大森英秀 龍虎図大小鐺  
江戸時代 18世紀 村山コレクション

#### 第4章 工芸品に見られる龍と鳳凰

中国で美術工芸品のモチーフとして用いられた龍と鳳凰は、朝鮮や日本へも伝わり、時代・素材を問わず多くの美術工芸品に取り入れられました。

広間や茶席の床などに飾る《交趾蓮唐草文香炉》<sup>こうちはずからくさまんこうろ</sup> (㊦) は、とぐろを巻き天に向かって咆哮する龍が蓋に表され、龍の頭の部分がつまみになっています。《赤絵鳳凰牡丹唐草文茶碗》<sup>あかえほうおうぼたんからくさまんちゃわん</sup>

(㊦) は、鳳凰と富貴のシンボルである牡丹が鮮やかな赤と緑で描かれています。



© 交趾蓮唐草文香炉  
中国・明～清時代 17～19世紀  
香雪美術館



⑩ 景德鎮窯 赤絵鳳凰牡丹唐草文茶碗  
中国・明時代 17世紀  
村山コレクション

## 主な出展作品

番号	作者・生産地	作品名	時代	所蔵
A	景德鎮窯	いみえだんりゅうかきもんみずさし 色絵団龍花卉文水指	中国・明～清時代 17世紀	香雪美術館
B		にちげつまりたけほろおうくじやくず びょうぶ 日月桐竹鳳凰孔雀図屏風	江戸時代 17世紀	村山コレクション
C		ふどうみょうおうほちだいでうじぞう 不動明王八大童子像	室町時代 15世紀	村山コレクション
D		てつとびがしらなりかぶと 鉄鳶頭形兜	江戸時代 17世紀	村山コレクション
E		まりほうおうずこづか 桐鳳凰図小柄	江戸時代 18世紀	村山コレクション
F	大森英秀	りゅうこぞうだいしゅうつば 龍虎図大小鐺	江戸時代 18世紀	村山コレクション
G		こうろ ぼすからくさもんこうろ 交趾蓮唐草文香炉	中国・明～清時代 17～19世紀	香雪美術館
H	景德鎮窯	あかえほうおうぼたんからくさもんちやわん 赤絵鳳凰牡丹唐草文茶碗	中国・明時代 17世紀	村山コレクション

※．号欄（A～H）は貸出写真記号

FAX: 078-841-1402

取材・写真使用申込書



(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 <input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> 雑誌 <input type="checkbox"/> その他( ) 番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取 材 の 範 囲	撮影 <input type="checkbox"/> する (撮影機材 <input type="checkbox"/> スチール <input type="checkbox"/> ENG <input type="checkbox"/> DVC) <input type="checkbox"/> しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください

作 品 画 像	ロ グ 画 像
---------	---------

注 意 事 項

企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。  
原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に香雪美術館広報担当宛に確認のためお送り  
くださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。

申 込 先

「香雪美術館」 龍と鳳凰展係 担当：郷司（ごうじ）  
TEL 078-841-0652 FAX 078-841-1402  
〒658-0048 神戸市東灘区御影郡家2丁目-12-1